

みんなちがって、 みんないい



岡崎市長 中根 康浩 氏

教育随想



令和3年4月1日

4月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想……………	1
岡崎市長 中根 康浩 氏	
この人に聞く……………	2
三菱自動車岡崎硬式野球部 マネージャー	
齊藤 陽太 氏	
羅 針 盤……………	2
竜海中学校 校長 伊豫田 守	
ふれあい……………	3
秦梨小学校 教諭 貝沼 友香	
特 集……………	4
令和3年度 岡崎の教育	
お知らせ……………	6
フォト・ヒストリー…	8
雅楽部の誕生(平成3年)	
この本を……………	8

「鈴と、小鳥と、それから私、みんなちがって、みんないい」
あまりに有名な童謡詩人金子みすずさんの詩の一節です。
もう一つ私が大切にしているのは、阿弥陀経というお経の中
「青色青光 黄色黄光 赤色赤光 白色白光」という言葉です。
みすずさんの詩も阿弥陀経も、あたり前のことを言っています。しかし、そのあたり前が大切だと思うのです。
社会や教育が、身勝手なものさしで、子どもを大人の都合で型にはめてしまうことのないようにと思います。
一人ひとり、あるがままに、幸せになれる世であればよいと思います。それが一人ひとり輝くということではないでしょうか。

と非難しても簡単には受け入れてもらえません。「あなたはあなたであっていい」と一旦は絶対的に肯定して認めてあげることが、人を勇気づけ、立ち直らせることもあるのではないのでしょうか。
私は「寄り添う」ということを多用します。それは小さい子どもをお世話する幼稚園の先生から学んだものです。
子どもが「寒いよ」といえば「寒いね」と返す。「痛いよ」といえば「痛いね」と返す。子どもの苦しみや痛みや喜びを自分のこととして受け止めるのです。決して「寒くなんかない、だらしないね」とは言わないのです。
私はスポーツが好きです。スポーツは勝つことだけが目的ではありません。勝者があるところには必ず敗者がいます。勝つことだけに価値が

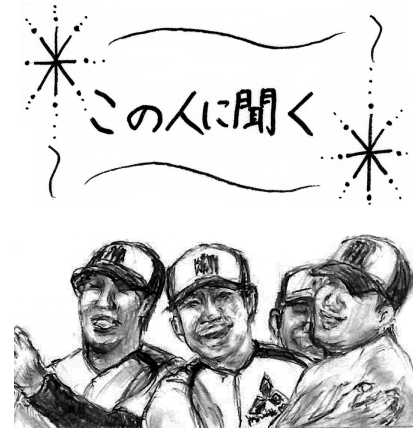


(なかね やすひろ)

挑戦し続けること

三菱自動車岡崎硬式野球部

マネージャー
齊藤 陽太氏



祖父の影響で野球を始め、リトル・シニアリーグ時にキャプテンとして全国大会出場。竜海中学校から神奈川・桐蔭学園に進学し、甲子園出場。明治大学に進学し、夢であった東京六大学リーグで活躍。卒業後は地元の三菱自動車岡崎硬式野球部へ。プロ野球選手の夢は叶わなかったが、同野球部のマネージャーとしてスケジュール管理や選手のスカウト等、多岐にわたる仕事に挑戦し、チームを支えている。

三菱自動車岡崎野球部にマネージャーとして残ったのはなぜですか
数年前、社会人野球の大きな目標

の一つである都市対抗野球大会に出られない年が続いていました。選手としての自分の今後について考え始めていたころ、監督から「チームの建て直しのため、右腕として働いてほしい」と言っていたことがきっかけです。監督は口数こそ少ないですが、気持ちが強く熱い方です。選手・人として、とても成長させてもらいました。そんな監督の言葉でマネージャーへの挑戦を決断しました。人と人の関わりが信頼関係を生み、人を育てると、野球から学びました。だから、今度は自分がチームの役に立ちたい、人を育てたいと思ったのです。

企業スポーツのマネージャーとしてどのような仕事をしていますか
会社とチームの橋渡しをしています。私たちのチームは、野球だけでなく会社での業務も大切にしています。しかし、シーズン中はどうしても野球優先で動くことが多くなってしまうと思います。職場の方に応援してもらえるチームであるために、本社に出向いて話し合ったり、練習場所や時間、移動手段など、スケジュールの調整をしたりします。

また、監督と選手の橋渡しもします。選手が育ち、試合で結果を残したときは、この上ない喜びを感じます。プロ野球選手になると喜びはひとしおです。反対に、努力しても結

果が出ず、落ち込んでいる選手を見るのはとてもつらいものです。私も同じ経験があるだけに尚更です。そんなときは、選手が再び立ち上がることを信じて、声を掛け続けます。

さらに、地域とチームの橋渡しも大切な仕事です。チームのユニフォームには岡崎市のマークがついています。都市対抗野球大会には、岡崎市の代表として出場するからです。地域貢献として、子供たち対象の野球教室に挑戦しています。選手たちも子供たちとのふれあいを楽しみにしています。どうしたら子供たちがもっと上手になるかを考えることで、選手にとっても学びになっています。

岡崎の子供たちに向けて、メッセージをお願いします
今の私があるのは、何事もあきらめなかったからだと思います。できないことがたくさんある方が、挑戦する楽しみを多く味わうことができます。挑戦する気持ちを忘れないでください。



氏名
さいとう
ようた
生年月日
昭和六十年
七月二十五日
住所
岡崎市長六名町

授業の三要素

竜海中学校
校長 伊豫田 守



我々にとって最も大切なものは授業である。竜海中学校では、毎年授業研究協議会を開催している。大変であるが、授業に真剣に向き合い、授業力向上に繋がっているという実感はある。この実感があれば三十八回も続いている。

よい授業をつくるための要素は三つあると考えている。一つ目は「情熱」。子供の成長を目指し、授業をどう展開するかを追究する心である。四六時中、ああでもない、こうでもない」と授業のことを考え、あちこちに足を運び、いろいろな人と話し、教材研究にどっぷり浸かる。よい授業をしたという「情熱」は、こうした行動を生み出す。
二つ目は「アイデア」。何を使い、どう指導するか。教材・教具の開発



『学び合い』を力に

秦梨小学校

教諭 貝沼 友香

本学級では、全員で課題達成をするために何ができるか考えることを大切に『学び合い』の学習を取り入れてきた。この授業を通して、大きく変容したAさんがいる。

五年生になった当初のAさんは、何をするにも気力が出ず、意見を求められても、黙って首をかしげるか、「なんでもいい。分かんない。」と答えていた。自分で決断できず、考えることを諦めているように見受けられた。そこで、『学び合い』の学習を通して学級の子供たちと関わる中で、授業や学校生活を自分自身のこととして捉えられるようになってほしいと考えた。

授業では、必ず「全員が」から始まる課題を提示するようにした。誰が課題を達成しているか分かるように、達成した子からネーム磁石を黒板に貼っていくこととした。

ある授業のことである。課題を達成できて喜んでいいる子や、「分かつ

たかな」と相談し合う子がいる中、Aさんは自席で一人考え込んでいた。Aさんはその授業では結局、ネーム磁石を移動させることはできなかった。

授業後、Aさんに「今日難しかったかな。」

と話し掛けると、小さくうなずいた。「そうか、でも全員達成を目指したいな。どうしたらいいのか、だね。」と言うと、Aさんは、

「みんなで考える。」

とだけ答えた。私はすかさず、「どうやったらみんなで考えて達成できるかな。次が楽しみだよ。」と励ました。

次の授業時間、席を立てて相談を始める友達の様子を見て、Aさんは何かやりたそうな様子だった。私が「大丈夫。席を立てていいよ。自分のために、みんなのためにどうしたらいいだろう。」と声を掛けると、Aさんは、教科書とノートを手には、友達の輪の中に自分から入っていきこうとした。

授業の最後に、分からないことを自分から聞きにいったAさんの姿がうれしかったことなどを、全体に伝えた。そう繰り返すうちに、学級の子供たちも、Aさんに根気強く語り掛けるようになってきた。

「一緒に考えようよ。」

「まずちゃんと自分で考えなきゃ。」
こうした子供たちの関わりは、次

第にAさんの学ぶ意欲を押し上げていった。

三学期、「全員で、道のり、速さ、時間の関係を式に表し、問題を解く」という課題で『学び合い』の授業を行った。友達に声を掛けられたAさんは、

「うん、途中まではできたよ。でも、ここからが分からなくて。」

と話し、友達と一緒に考え始めた。そして、「時間÷道のり÷速さ」という考えを導き出し、仲間に自分の考えを説明する姿が見られた。

授業後、Aさんに、

「授業に集中していたね。」

と声を掛けると、「分かるですっきりするし、友達と考えるのが楽しい。」

と答えた。Aさんの成長を感じるこ

とができた瞬間だった。

今では、Aさんは、自分の課題を達成するとすぐに、

「大丈夫。一緒に考えよう。」

と、友達に声を掛けて

いる。全員が課題を達成

できるよ

うにと、

Aさんは

今日も考

える。



だけでなく学び方の開発など、様々な視点から考える。しかし、アイデアはそう簡単には浮かばない。多くの先生と話したり、調べたり、試したりしながら、アイデアを固めていく。大切なのは広い視野と柔軟な発想である。アイデアを生かした授業で、子供の反応を想像することは楽しく、早く授業をしてみたくなる。

三つ目は「お金」。現実的な話になるが、やはり、よい授業にはお金がかかる。教材研究にしても、教材開発にしてもお金がかかる。とはいえ、どこからお金が出るわけではない。今ある物を工夫し、施設をフル活用する。ここでもアイデアが大切である。また、教材に関わる備品や消耗品を揃える際に、先を見通して計画的に行うことが大切である。

子供たちの学校生活は、基本的に楽しいものだが、そればかりではない。苦しいこと、つらいこと、悩むこともある。子供は、それを乗り越えようとする中で、成長していく。我々も同じである。よい授業をするためには苦しさがある。その苦しさから逃げずに向き合うところに向上がある。そして、子供にとっても我々にとっても楽しい授業の実現がある。



▲ チーム学習による学び合い（細川小）

岡崎の教育が目指すもの

教育は夢見るものであり、希望に満ちたものであり、明日に期待するものでなくてはならない。それは、教育が、未来を拓く重要な鍵となるからである。

岡崎の人々の心を貫く教育の流れは、香り高い文化の華を咲かせ、豊かな精神の土壌を培ってきた。そこには、常に子供に寄り添い、子供の心を大切に、努力をしてきた岡崎の教師の姿があった。その魂は、脈々と受け継がれ、岡崎の教育の伝統となっている。

令和三年三月、本市は、岡崎市学校教育等推進計画を策定し、令和三年から七年までの五年間に目指す岡崎の教育、その実現のための施策を示した。

基本理念は、「未来を拓き、豊かに生きる力をもった子供の育成」に「自立」「共生」「創造」を目指してである。未来を拓き、次代を生きる子供たちの資質能力として、自分で考え判断し、実行する力、多様な人々の価値観を理解し、共に生き、新たな未来や技術、世界を創造する力が必要であると考えた。重点的に取り組むべきこととして、①学び方改革の推進②子供の可能性を伸ばす教育の推進③教育の情報化の推進を掲げ、最後に④教職員の働き方改革の推進と教職員の育成を加えた。

国の給特法の一部改正により、教育職員の時間外在校等時間の上限が一月四十五時間以内、一年三六〇時間以内と定められた。教育の質のさらなる向上を目指しつつ、これまで以上に厳し

く働き方を見直すことが求められる時代となった。

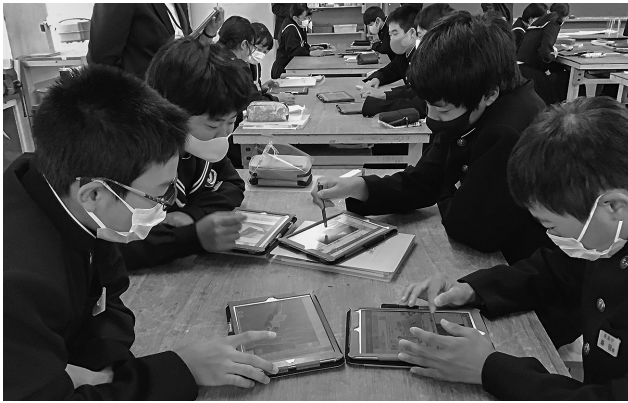
令和三年度は、「子供の学び方」及び「教職員の働き方」改革元年である。授業づくりや部活動など、これまで当たり前のように進めてきた教育活動のすべてを根底から見直し、令和の時代の新しい岡崎の教育を構築する。

近未来は、情報技術が加速度的に進化し、超スマート社会の到来が予想されている。岡崎の教育も、これまで培ってきた不易の志を忘れることなく、新たな岡崎の教育の実現に向け、果敢に挑戦していかなければならない。

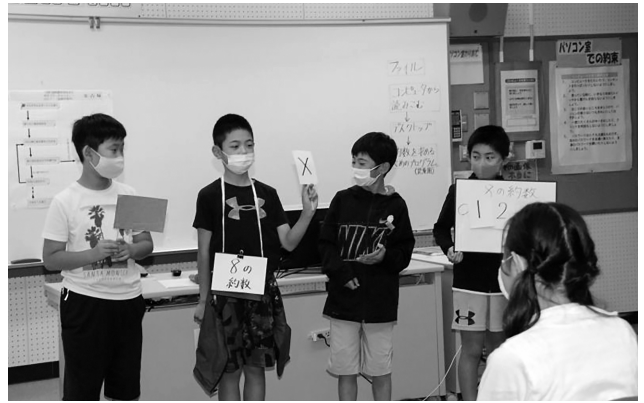
岡崎の教育が大切にしてきたもの

学校教育に求められているものは、児童生徒が人間として生涯にわたって心豊かで、力強く生きぬくための基盤となる能力を育成すること、知・徳・体の調和のとれた感性豊かな人間形成を図ることである。その原点には、教師の「子供の幸せを願う強い思い」と「人間形成への情熱」がなければならぬ。

そのためにも、基礎的、基本的な内容を重視しつつ、物事の本質に迫る学習活動を通して、学ぶことの価値を実感させることが重要である。また、個別最適な指導を一層充実させ、一人一人の児童生徒の個性を伸ばす教育を展開していくことも大切である。そのために、学校や地域の実態に応じて、創意工夫を生かした特色ある教育課程を編成することが必要である。それに基づく教育活動を通して、公共の精神を尊び、地域を愛し、誇りに思い、子供



▲ Myタブレットを活用した学習（東海中）



▲ プログラミング的思考の育成（男川小）

が自他を敬愛し、喜んで通うことのできる安全で魅力ある学校づくりを目指す。

「教育は人なり」の至言のごとく、岡崎の教師は、教育者としての使命感に燃え、全校一致の指導体制のもと、敬愛の情で結ばれた師弟関係を築き、家庭と地域と学校とが協働し、信頼される教育の創造に努める。

特に次の三点を指導の重点とする。

○学ぶ楽しさを実感し、深く考え、学び続けるための「確かな学力」を育む教育の推進

○命の尊さやふるさとの大切さを自覚し、共に生きるための「豊かな心」を育む教育の推進

○体を動かす楽しさを体感し、たくましく生きるための「健やかな体」を育む教育の推進

時代の先頭を走る岡崎の教育

岡崎の教育は、これまでも、その時代の要請に応え、独自の教育活動を推進してきた。その姿勢はこれからも変わることはない。

国が推進するSDGs（持続可能な開発目標）の四番目の目標は、「質の高い教育をみんなに」である。その理念を受け、本市では、多様な子供たちを誰ひとり取り残すことなく、すべての子供たちの可能性を引き出す、新しい学びを目指す。その基盤となるのが、ICTとチーム学習の融合である。

昨年度、岡崎版GIGAスクール構想の環境整備として、児童生徒一人一台のタブレット端末の配備と全小中学校への大容量高速ネットワーク整備を

完了した。今やパソコンやタブレットは、鉛筆やノートと並ぶ、学習のラストアイテムとなった。教師は子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行っていく。そしてこれまでの教育実践の蓄積の上に、最先端のICT教育を取り入れ、新たな指導方法を研究、推進する。

また、二斉授業からの脱却を目指し、四人のチームによる学習形態を中心に授業を進めていく。教師は、ティーチャー（教える者）から、ファシリテーター（促進者）となり、児童生徒を支援する。これにより、個に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身の学習が最適となるように学びを調整できるように促す。このように「指導の個別化」と「学習の個性化」の両立を図ることで、誰ひとり取り残すことのない、令和の時代の岡崎の教育を研究、推進していく。

岡崎の子供たちが、予測できない社会変化に主体的に向き合い、未来の創り手となる力を身につけていくことが求められる。これまで培ってきた岡崎の教育実践を礎として、新たな時代を生き抜く子供の育成を目指して、弛まぬ授業改善と教育研究を実現していく。

重点努力事項

今、私たちが取り組むべき事柄として、以下の四つを挙げる。

- ①学び方改革の推進
- ・多様な価値観を持つ子供たちを、誰ひとり取り残さない、個別最適化さ

れた教育を研究、推進する。
完全実施となる新学習指導要領を着実に実施する。

・一斉授業から脱却し、チーム学習を中心とした、共生の心を育む教育活動を推進する。

②子供の可能性を伸ばす教育の推進
・きめ細やかな教育の実現に向けた環境を整備する。

・ストップ・ザ・いじめアクションプランを確実に実施し、いじめの未然防止との確な対応を徹底する。

・校内フリースクールを充実させ、長期欠席者の学校生活を保障する。
・外国人児童生徒への指導・支援を充実する。

・WEB版ハイパーQ Uを年二回実施し、成育環境に応じた適切な支援を充実する。

③教育の情報化の推進
・プログラミング学習の継続実施し、改善を図る。

・「岡崎版GIGAスクール構想」の運用支援体制を確立する。
・次世代型高速大容量ネットワーク整備に向けた実証研究する。

④教職員の働き方改革の推進と教職員の育成
・部活動や日課表の見直しによる新しい学校デザインを構築する。

・職場外アクセス機能やeラーニングによる研修などOKAZAKIスマートワークを積極的に推進する。

・教職員一人一人が、時間外在校等時間の把握とその業務内容を十分に認識して、よりよい働き方をマネジメントする。



●教育最新情報

◆校内フリースクール「F組」増設

令和二年度、岡崎市内の中学校三校（甲山中学校、福岡中学校、矢作中学校）に校内フリースクール「F組」を開設した。愛知県内初の新しい長期欠席支援の取組として注目されている。

令和三年度は、さらに中学校五校（美川中学校、東海中学校、岩津中学校、北中学校、六ツ美北中学校）に「F組」を開設する。子供たちの「社会的自立」を目指し、一人一人に寄り添った支援を行っていく。

●岡崎市教育委員の変更

令和三年度、岡崎市教育委員会には、教育長職務代理者を上原三十三氏が務める。また委員は、小出義信氏、岡田京子氏、福應謙一氏の三名が務める。

●岡崎市教育委員会事務局 課名等の変更

学校指導課は、指導管理係、指導研修係、教育支援係、学事保健係の四体制となる。なお、教育政策課にGIGAスクール戦略係、社会教育課に視聴覚ライブラリーがある。

●教育関係機関だより

◆岡崎市総合学習センター

令和三年四月一日より新しくなった総合学習センターの利用が可能となる。多目的ホール、洗い場付き研修室、ICT環境の整った研修室など、さらに充実した研修が可能となる。

○教育研究所

○教育図書室

(1)教育図書室 学習指導案の閲覧、図書資料の貸出し、学芸会等のDVD資料の視聴ができる。

(2)教育アドバイザー

教育に関する様々なことについての相談ができる。

(3)学校運営アドバイザー

学校運営についての相談ができる。

◆教育相談センター

(1)教育相談部門と通所・支援部門がある。教育相談部門には、「そよかぜ相談室」がある。

○そよかぜ相談室

就学支援・特別支援教育、

いじめや長期欠席等に関する支援をしている。相談をする場合は、電話予約が必要となる。その後、通所し、臨床心理士や相談員と相談する。また発達障がい等の専門家（大学教授等）が巡回相談を行っている。

(2)通所・支援部門には、長期欠席児童生徒校外適応指導教室「ハートピア岡崎」等がある。

○ハートピア岡崎(竜美・上地)

長期欠席や、その傾向のある子供が学校への復帰や社会的自立を目指して通所し、指導員やハートピア専属の臨床心理士による支援を受ける。通所については、学校を通して手続きを進める。

○スクールソーシャルワーカー

子供が置かれている環境や、抱えている課題を踏まえ、関係機関との連携・調整や支援を行う。福祉や教育に精通した社会福祉士や教員OBが対応する。

◆日本語初期指導教室

○プレクラス『希望』

岡崎市内の小中学校に編入学、転入学してくる日本語教育を必要とする児童生徒が増加傾向にある。それに伴い、令和元年度に中学生を対象とした日本語初期指導教室「プレクラス」を南中学校内に開

設した。さらに令和二年度には、その対象を小学校四年生まで拡充している。

プレクラスでは、学校生活になかなか馴染めない日本語指導が必要な児童生徒が、安心して日本の学校に通うことができるように、初期段階の日本語の習得や日本文化への適応を図ることを目指している。

●表彰

◆令和二年度中部日本管楽器個人・重奏コンテスト愛知県大会

○重奏の部

フルート四重奏 竜美丘小

○重奏の部

フルート三重奏 打楽器三重奏 岩津中

○重奏の部

打楽器五重奏 竜海中

○重奏の部

打楽器六重奏 北中

○重奏の部

金管八重奏 岩津中

○個人の部

フルート 南中

○個人の部

クラリネット 翔南中

○個人の部

サクソフォン 美川中

ユーフォニアム 【銀賞】南中 秋富 風香

◆第六回セディア財団全国小学生「わたしたちのくらしと水」かべ新聞コンテスト二〇二〇

【努力賞】

岩津小 佐藤 美憂

◆第四十三回人権を理解する作品コンクール

○標語の部

【優秀賞】 細川小 葛西 汐里

【優秀賞】

六ツ美中 鈴木 美咲

【入選】

秦梨小 市橋 未羽

【入選】

北野小 宮崎 蒼平

【入選】

美川中 永島 孝則

○書道の部

【入選】 美川中 江口 美優

○ポスターの部

【最優秀賞】 美川中 江口 美優

【最優秀賞】

福岡小 曾根美莉亜

【最優秀賞】

翔南中 坂倉萌々華

【最優秀賞】

翔南中 星野 愛

【入選】

六名小 森下 由彩

◆第七十九回全日本学生児童発明くふう展

【奨励賞】南中 金原 侑希

◆第十三回こども絵画コンクール

○小学校高学年の部

【愛知県青年の家所長賞】

羽根小 村尾 紗來

◆いじめ防止標語コンテスト

【PTA推薦賞】

美川中 江村 璃乃

【PTA推薦賞】

竜美丘小 小林晟太郎

◆第二十二回「自然」の詩「人間愛」の詩

【白鳥省吾賞】

○小・中学生の部

【優秀賞】

竜海中 内山 芽泉

●期待の新任教員

令和三年度岡崎市小中学校新規採用教員は一〇二名(養護教諭を含む)である。

なお、新任教員の配置は次のとおりである。

◆新規採用教員

梅園小学校 福井 葉奈

根石小学校 大谷 哲平

七野 友紀

北神祐里子

富松 侑汰

末吉 溪人

辰己 沙羅

長尾 有真

森田由梨奈

加藤 菜摘

清水 莉捺

羽根小学校 木下 智尋

岡崎小学校 渡辺 侑愛

大野 紗奈

段 まい

青木 拓人

村田 修也

岡本妃南美

砂田 瑞貴

石田 啓悟

清水美奈子

太田 麻葵

柵木 美緒

鈴木 良太

太田 航平

井尻 和範

石川 瑞紀

江坂 遼史

辻本 瑞季

柵木 良介

中根 佳恩

笠原慎太郎

水野このみ

飯山孝太郎

渡瀬 祐花

大野 里佳

尾崎 聖太

岡 千晴

佐藤 昌範

常磐東小学校

青木丈之伸

浅井 悠輔

木村 悠

佐藤 佑哉

藤嶋 桃子

川淵 文菜

大樹寺小学校 長瀬 太一

大門小学校 安藤 有輝

河崎 沙綾

梶川末紗衣

榎間 菜由

鶴留 蓮士

村川 友香

中島 千尋

三浦彩都子

阿部 素子

石川 寛之

中根 綾

鍋谷 太

葛谷 航貴

佐藤 菜美

伊藤万柚子

細井 雄介

船橋 拓磨

中條 千江

大脇 里紗

上原 美鈴

森田 尚也

伊豫田 愛

鈴木 悠世

増子 紗和

池内宏太郎

馬瀬戸麻衣

小島 茜

川平 一之

川合 由華

小久保千菜美

川越ちとせ

杉山 美咲

山本 萌愛

福田 愛

南中学校 岩井 康泰

竜海中学校 細井 崇代

葵中学校 十文字 優子

阿野 友希

山田 匠馬

森 俊太郎

川村 真輝

安藤 綾真

岸田 宏

手島 萌乃

東海中学校 萩原 緑

岩津中学校 服部愛絵里

矢作中学校 長坂 理沙

北中学校 小出 達也

矢作北中学校 平本未紗音

六ツ美北中学校 西川 翔真

額田中学校 大橋 朋洋

翔南中学校 加藤 夕貴

服部ひな子

野口 愛恵

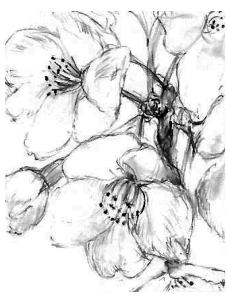
●期待の新任事務職員

令和三年度の新任事務職員は三名で、配置は次のとおりである。

梅園小学校 木村 祐太

竜海中学校 田内 悠一

村木 洋介



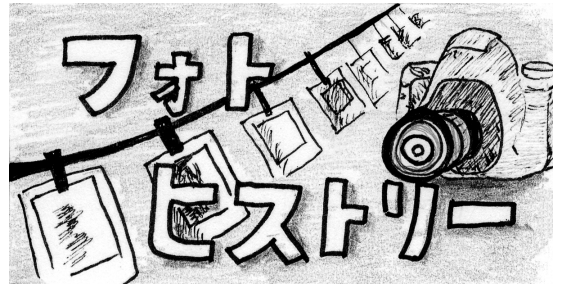
教職員の相談窓口

【対象】全教職員 【相談内容】・勤務のこと・家庭のこと・心や体のこと 等

番号	相談窓口	電話番号	相談受付日時
1	岡崎市教職員相談ダイヤル	0564-64-3322	火曜日～金曜日 12:00～19:00 土曜日 12:00～16:30
2	岡崎市こころのホットライン	0564-64-7830	平日 13:00～20:00
3	愛知県総合教育センター教育相談	0561-38-2217	月曜日～金曜日 9:00～17:00
4	あいちこころのホットライン 365	052-951-2881	年中無休 9:00～16:30
5	名古屋いのちの電話	052-931-4343	年中無休 24時間

雅楽部の誕生 (平成3年)

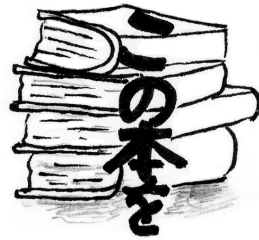
写真提供：矢作北小学校



初めての学芸会出演を前に、緊張した様子の子供たち。指導者は学区で雅楽を継承する「長瀬楽人会」の方たちである。衣装と帽子は教師の手作りだ。

平成元年に「雅楽を聴く会」を催した。平成三年には雅楽クラブができ、間もなく雅楽部が誕生した。楽譜は難しく、歌を聴いて覚え、楽器の音出しにも苦労した。有名な『越天楽』が演奏できるまで約半年かかった。学芸会や敬老会で演奏すると、地域の人々はとて喜んだ。雅楽部の活動を通して、子供たちに郷土を愛する気風が高まっていった。伝統文化を受け継ぎ、郷土愛を育んでいくことの意義は大きい。

・題
・タイトルバック
・各タイトル
・カ
・ト
・ル
・字
・教
・育
・長
・安
・藤
・直
・哉
・岩
・津
・小
・三
・藤
・祐
・揮
・東
・海
・中
・近
・浦
・李
・奈
・常
・磐
・中
・長
・坂
・有
・里
・乃



***家族のトリセツ** 黒川 伊保子
NHK出版新書 ¥850

心に残った一文
家族は、「違う脳」の集まりなので、それぞれの脳にとっての正解が違うことを、おおらかに認めあわないと、本当につらい。

コロナ禍でお家時間が増えた今こそ、相手が100%悪かったとしても、自分にもできることがあったはず、と視点を変えて共感する方が、ずっと楽であると感じた。例えば夏の朝、「ああ、氷がない」と嘆く妻に、「僕も気にしていればよかった」の聲が、魔法の言葉になる。

誰もが納得する標準の理想解はAIに任せ、人間にしかできない「個性の発揮」感性のジャッジ、そして「笑顔」を、家族はもちろん、教室や職員室でも大切にしたいと、改めて考えた1冊である。

***なぜあの学校は危機対応を間違えたのか** 石川 慶子
教育開発研究所 ¥2,000
***子供の発達障害の誤診の危機** 榎原 洋一
ポプラ新書 ¥860
***「学校」をつくり直す** 苫野 一徳
河出新書 ¥840
六ツ美南部小 岩瀬 竜弥

本気で何かに取り組んでいる人は、目に力がある。プロ野球選手になるといいう道が断たれても、チームのために全力を尽くすという強い意志を齊藤氏の目から感じた。子供たちのために全力を尽くす。強い意志をもち、温かな眼差しをおくることができる教師でありたい。

「ともだち一〇〇人できるかな」
詩人まどみちおさんの「一年生になったら」の一節である。

ドキドキワクワクの新学期。どんなことがあるうとも、このときの気持ちを大切にしたい。そして「わっはは、わっはは、わっはは」と笑顔あふれる学校でありたい。

ど ホ ツ 目

つくしの花言葉の一つに「向上心」がある。つくしが地中から天に向かってすくすくと伸びることに由来するという。

子供は本来、向上心をもっている。それでも順調に伸びるばかりではない。つまずいたとき、寄り添い、見守る友や教師の存在が何より大切である。



▲何の花だろう？